

Medical Technology News

臨床検査室新聞

LOOK 便潜血検査

肉眼では見分けることのできない微量な血液を潜血と言います。便潜血検査は便中の潜血の有無から消化管出血を確認する検査です。

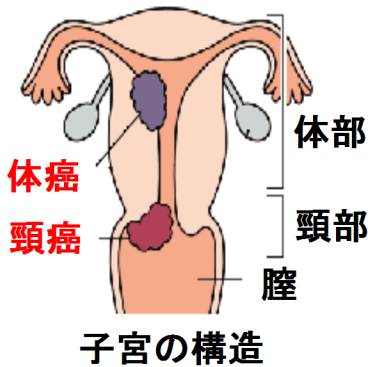
当院ではヒトヘモグロビン(赤血球に含まれる成分)をとらえており、疫学検査方法として実施しております。肉や魚など食品由来の血液には反応しないため、検査前に食事制限等は必要ありません。ただし、ヒトヘモグロビンは胃液などで変性しやすいため上部消化管(胃や十二指腸)での出血は見つけにくく、主に下部消化管(大腸)での出血があるかの確認となります。

下部消化管出血が考えられる疾患

大腸癌・大腸ポリープ

潰瘍性大腸炎などの炎症性疾患
痔からの出血でも陽性となるので採便時にあまり力みすぎないようにしましょう☆

出血の有無だけども、疾患が判断できる点がない場合は、詳しい検査(内視鏡検査・CT検査など)を受けてみましょう。



子宮の構造

子宮癌は子宮の下部1/3の細くくびれた子宮頸部に発生する子宮頸癌と、子宮の上部2/3を占める膨らんだ子宮体部の内側にある子宮内膜から発生する子宮体癌に分けられます。子宮体癌と診断され

子宮体癌



測り、細胞診と、子宮内腔の厚さを測ります。子宮の内部に細い棒状の器具を挿入して細胞を採取して異常がないか検査する子宮内腔鏡検査があります。

一般的に検査として、直接子宮の内部に細い棒状の器具を挿入して細胞を採取して異常がないか検査する子宮内腔鏡検査があります。

原因として、エストロゲンという女性ホルモンの長期的刺激が続くことで発生すると考えられています。また、肥満、糖尿病、高血圧、閉経が遅い場合、子宮体癌のリスクが高くなるとされています。

○症状

ほとんどの子宮体癌で不正性器出血(月経以外の出血)が認められます。また、帯下(おりもの)や下腹部痛が見られることもあります。このような症状を感じて気になるようでしたら婦人科受診をお勧めします。

2017年 5月
第70号
発行元 八雲総合病院
臨床検査室



甲状腺エコーについて



甲状腺は喉の下にある小さな臓器です。甲状腺には体に必要なホルモンを作る大切な働きがあり、主に新陳代謝の促進、神経と精神のコントロール、脳や骨の生成、発育に関連しています。甲状腺の病気がかかると甲状腺が腫れたり、形がいびつになったりします。

エコー検査は超音波を使っているので、痛みがほとんどなく、負担の少ない検査です。

○エコー検査で見ていること
甲状腺の大きさ、結節(しこり)の有無、腫瘍の有無とその性状などを見ています。

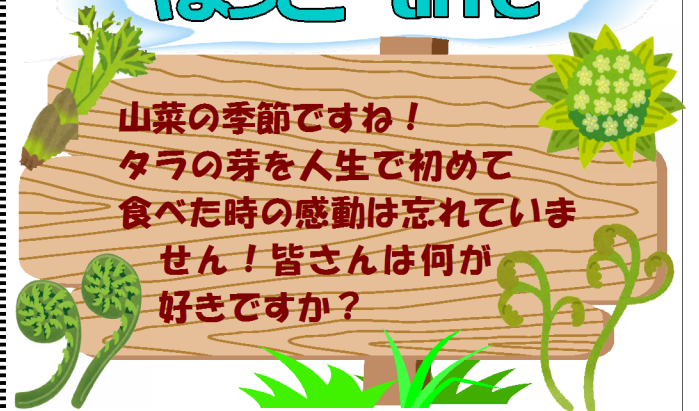
○検査方法
ベッドに上を向いて寝てもらい、首をしっかりと伸ばします(伸ばしづらい場合には枕を首の後ろに置く場合もあります)。

首にエコープローブをあてて甲状腺全体をしっかりと観察します。検査時間は平均10分程度です。

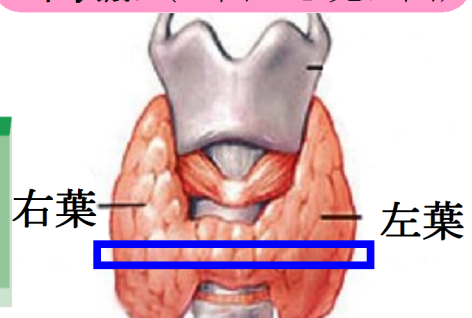
○甲状腺の主な疾患
甲状腺がん、甲状腺機能亢進症(バセドウ病)、甲状腺機能低下症(橋本病)、甲状腺腫(良性)、甲状腺炎などです。

疾患を特定するためにはエコー検査の他に、血液検査、CT検査、シンチグラフィ、病理細胞診などが必要になります。

ほっと time



甲状腺 (正面から見た図)



超音波プローブを青枠の部分に当てると左の画像が見えます。

検査の基本



甲状腺のエコー画像 (正常)

編集後記

先日初めてスマートフォンを購入しました。最初は電話するだけで四苦八苦...。時代の流れにのるのも大変ですね。

